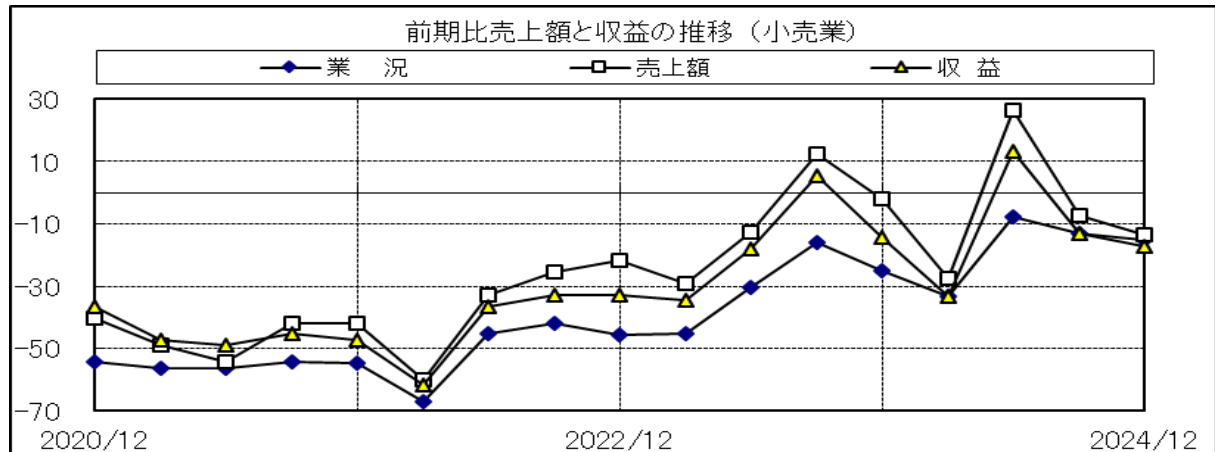


小 売 業 53 企 業（回答率 100%）の調査結果です

□ 景 況

DI 値 の推移	4～6 月 期 実 績	7～9 月 期 実 績	10～12 月 期 実 績	1～3 月 期 見 通 し
業 況	-7.6	-13.1	-15.1	-33.9
売上額	26.4	-7.5	-13.3	-24.5
収 益	13.2	-13.2	-17.3	-30.2

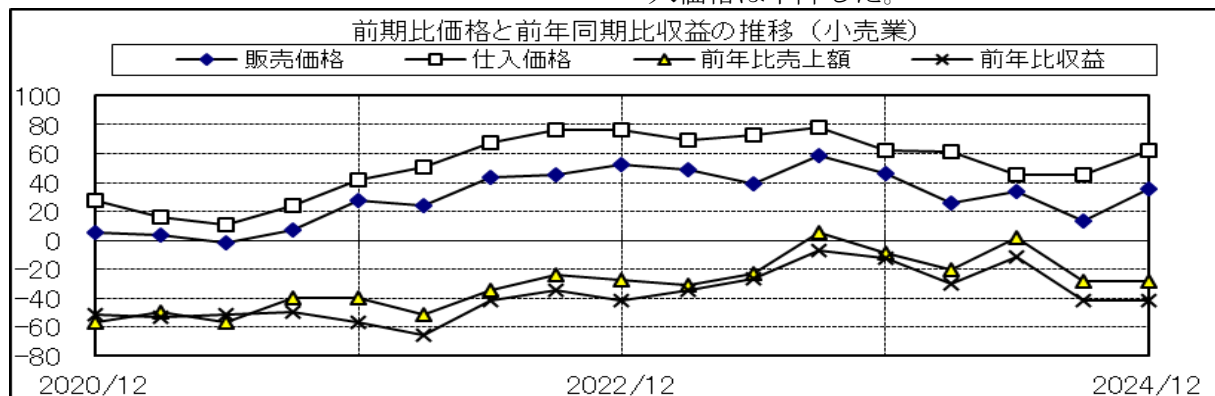
今期の業況判断 D.I. は△15.1 で、前期比 2.0 ポイント下降。前年(△25.0)比では 9.9 ポイント上昇した。地区別の D.I. は高い順に、三石が最も高く、次に、様似、静内、えりも、広尾と続き、浦河が最も低い水準となった。売上額判断 D.I. は△13.3 で、前期比 5.8 ポイント下降した。収益判断 D.I. は△17.3 で、前期比 4.1 ポイント下降した。



□ 価格面の動き・前年同期と比べた動き

DI 値 の推移	4～6 月 期 実 績	7～9 月 期 実 績	10～12 月 期 実 績	1～3 月 期 見 通 し
販売価格	34.0	13.2	35.8	33.9
仕入価格	45.2	45.2	62.2	52.8

販売価格判断 D.I. は 35.8 で、前期比 22.6 ポイント上昇。前年(46.3)比 10.5 ポイント下降した。仕入価格判断 D.I. は 62.2 で前期比 17.0 ポイント上昇。前年(62.5)比 0.3 ポイント下降した。業種別では、衣料品は販売、仕入価格ともに下降。食料品は販売、仕入価格ともに上昇。家電品は販売価格は横這い、仕入価格は下降した。



□ 雇用面の動き

DI 値 の推移	4～6 月 期 実 績	7～9 月 期 実 績	10～12 月 期 実 績	1～3 月 期 見 通 し
残業時間	0.0	3.8	1.9	-3.7
人手状況	-17.0	-15.1	-15.4	-17.0

残業時間判断 D.I. は 1.9 で、前期比 1.9 ポイント下降し、残業時間が減少したとする企業割合が増えた。

人手過不足判断 D.I. は△15.4 で、前期比 0.3 ポイント下降し、人手不足感はやや強まった。

□ 設備投資の動き

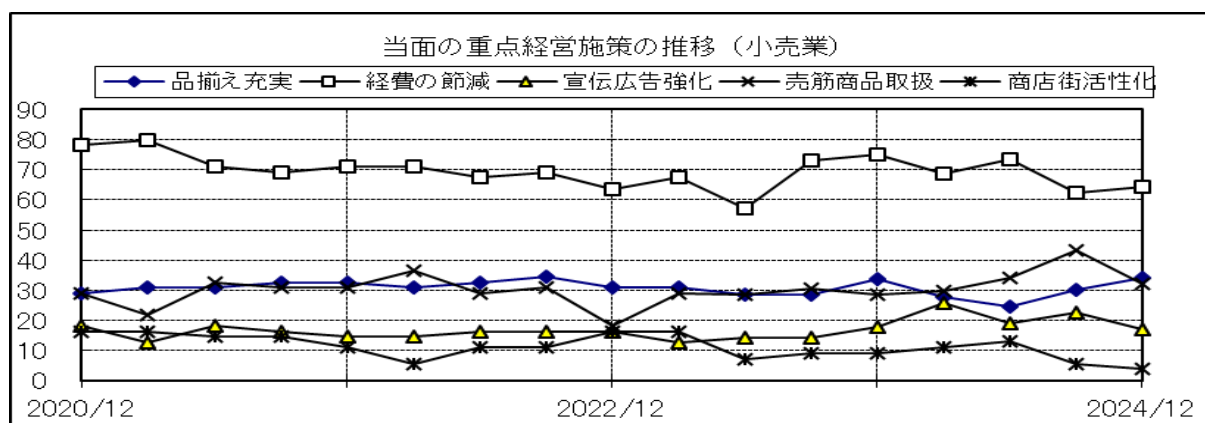
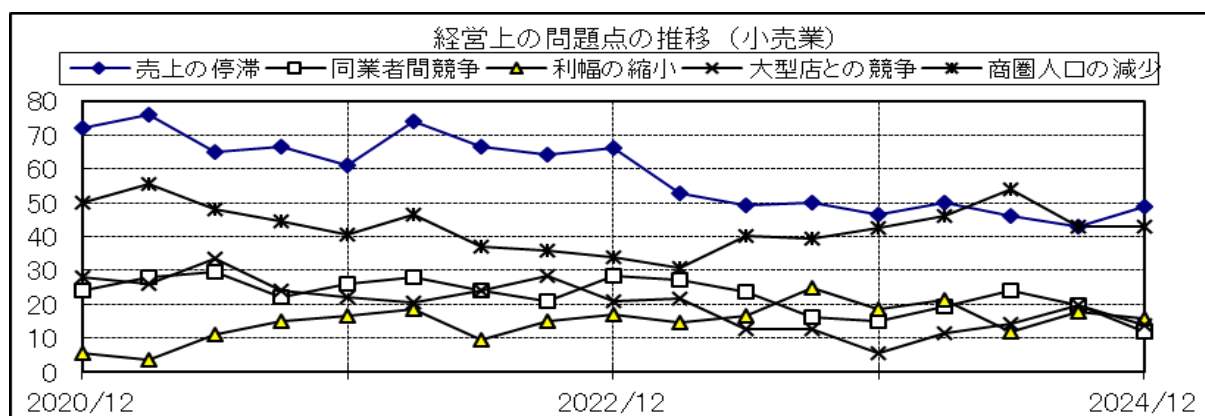
設備投資の充足感を示すD. I. は△15.1で、前期(△5.7)比9.4ポイント下降した。

設備実施企業割合は3.8で、前期(9.4)比5.6ポイント下降した。備投資は、前期5社に対し2社の実施となった。来期の設備投資は、2社の予定となっている。

□ 経営上の問題点と重点経営施策

経営上の問題点は、「売上停滞減少」が49.0%と最も多く、次に「商圏人口減少」43.1%、「値上り要請」・「商店街集客力低下」が17.6%、「利幅縮小」15.7%、「大型店競合」・「人件費増加」が13.7%、「同業者競合」・「取引先減少」が11.8%、「人手不足」9.8%、「代金回収悪化」7.8%、「販売商品不足」・「店舗狭隘老朽化」・「天候不順」が5.9%、「諸経費増加」・「地場産業衰退」が3.9%、「値下げ要請」・「大手企業撤退」が2.0%となっている。

重点経営施策では、「経費節減」が64.2%と最も多く、次に「品揃え改善」34.0%、「売れ筋商品取扱」32.1%、「宣伝広告強化」17.0%、「仕入先開拓選別」・「機械化推進」・「人材確保」が7.5%、「店舗設備改装」・「営業時間延長」・「教育訓練強化」が5.7%、「商店街活性化」・「輸入商品取扱増加」が3.8%・「新事業開始」1.9%となった。



□ 来期の見通し

来期の予想業況判断D. I. は△33.9と、今期比18.8ポイントの下降を見通している。

予想売上額判断D. I. は△24.5と、今期比11.2ポイントの下降を見通している。

予想収益判断D. I. は△30.2と、今期比12.9ポイントの下降を見通している。

予想販売価格判断D. I. は33.9と、今期比1.9ポイントの下降を見通している。

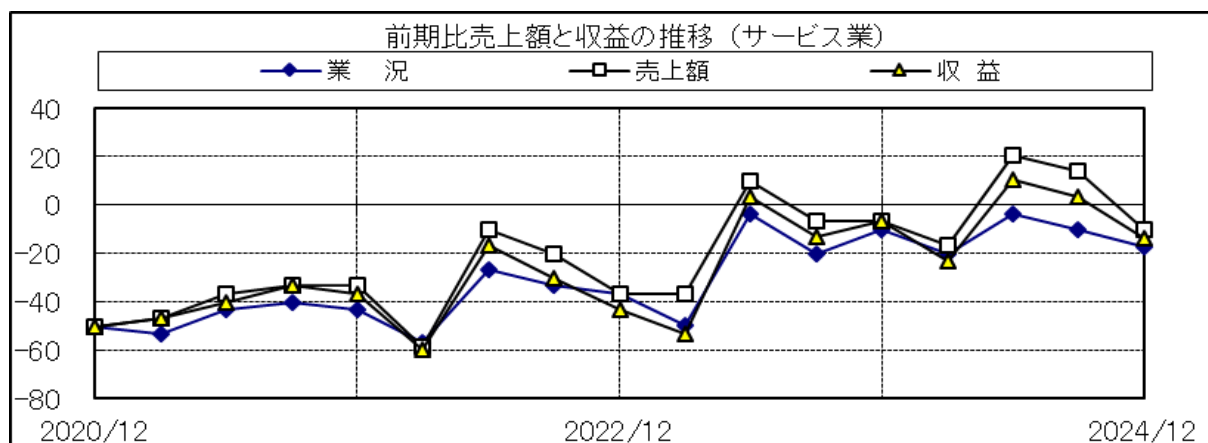
予想仕入価格判断D. I. は52.8と、今期比9.4ポイントの下降を見通している。

サービス業 29 企業（回答率 96.7%）の調査結果です

□ 概 況

DI 値 の推移	4～6 月 期実績	7～9 月 期実績	10～12 月 期実績	1～3 月 期見通し
業 況	-3.5	-10.3	-17.2	-34.5
売上額	20.7	13.8	-10.3	-13.9
収 益	10.3	3.5	-13.7	-20.7

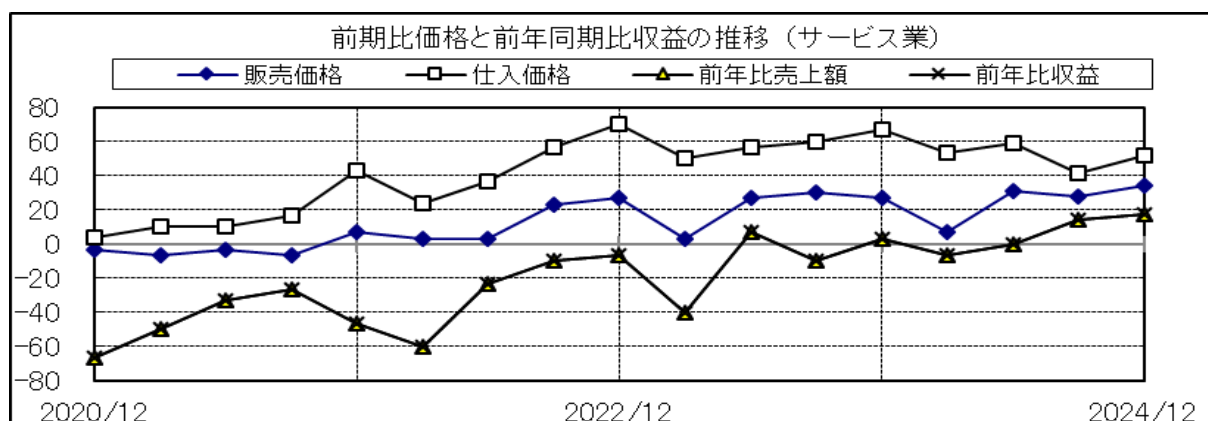
今期の業況判断 D. I. は△17.2 で、前期比 6.9 ポイント下降。前年(△9.9)比では 7.3 ポイント下降した。地区別の D. I. は高い順に、三石が最も高く、次に、静内、浦河・えりも・広尾が同率で続き、様似が最も低い水準となった。売上額判断 D. I. は△10.3 で、前期比 24.1 ポイント下降した。収益判断 D. I. は△13.7 で、前期比 17.2 ポイント下降した。



□ 価格面の動きと前年同期に比べた動き

DI 値 の推移	4～6 月 期実績	7～9 月 期実績	10～12 月 期実績	1～3 月 期見通し
料金価格	31.0	27.5	34.4	24.1
材料価格	58.6	41.3	51.7	34.4

料金価格判断 D. I. は 34.4 で、前期比 6.9 ポイント上昇。前年(26.7)比 7.7 ポイント上昇した。材料価格判断 D. I. は 51.7 で、前期比 10.4 ポイント上昇。前年(66.7)比で 15.0 ポイント下降した。業種別では、旅館業・洗濯理美容業は、料金・材料価格ともに上昇。自動車整備業は、料金価格は下降、材料価格は横這いとなった。



□ 雇用面の動き

DI 値 の推移	4～6 月 期実績	7～9 月 期実績	10～12 月 期実績	1～3 月 期見通し
残業時間	0.1	0.1	3.5	-13.7

残業時間判断 D. I. は 3.5 で、前期比 3.4 ポイント上昇し、残業時間が増加したとする企業割合が増えた。

人手過不足判断 D. I. は△20.7 で、前期比 10.3 ポイント上昇し、人手不足感は弱まった。

人手状況	-41.4	-31.0	-20.7	-27.6
------	-------	-------	-------	-------

□ 設備投資の動き

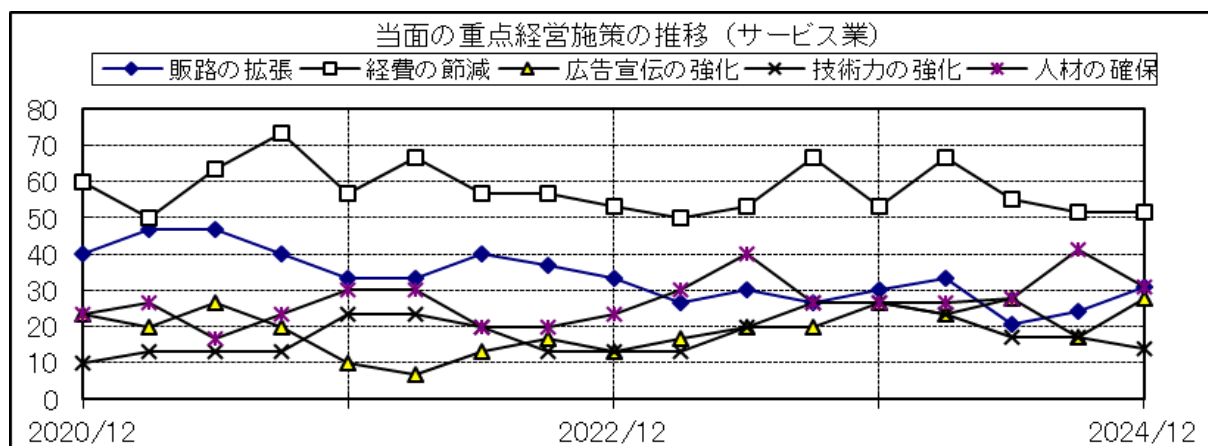
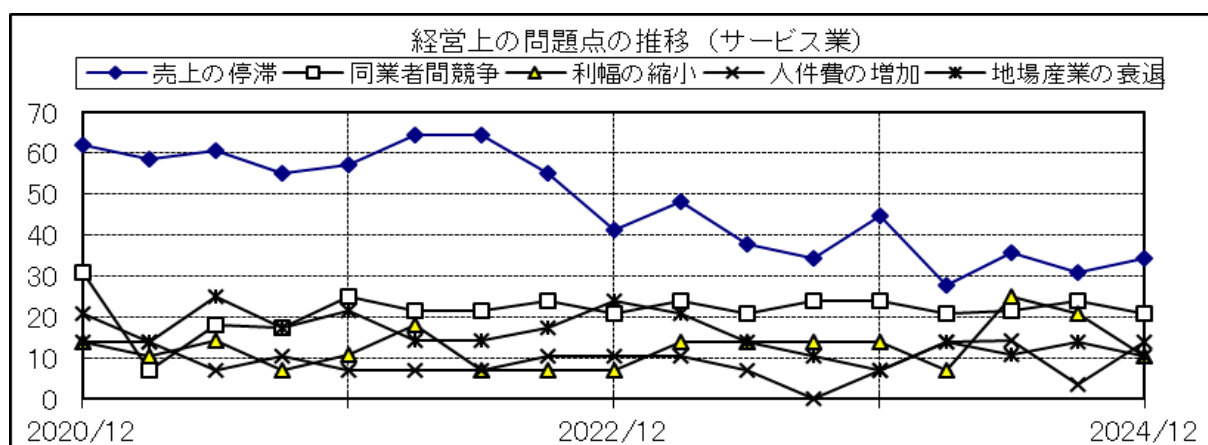
設備投資の充足感を示す D. I. は $\Delta 10.3$ で、前期と同水準となった。

設備投資実施企業割合は 10.3 で、前期と同水準となった。設備投資は、前期 3 社に対し、3 社の実施となった。来期の設備投資は、4 社の予定となっている。

□ 経営上の問題点と重点経営施策

経営上の問題点は、「材料価格上昇」・「商圈人口減少」が 37.9%と最も多く、次に「売上停滞減少」34.5%、「人手不足」・「同業者競争」が 20.7%、「人件費増加」・「取引先減少」が 13.8%、「利幅縮小」・「地場産業衰退」が 10.3%、「諸経費増加」・「店舗設備老朽化」が 6.9%、「大手企業競争」・「合理化不足」・「技術力不足」・「代金回収悪化」・「天候不順」が 3.4%となっている。

重点経営施策では、「経費節減」が 51.7%と最も多く、次に「販路拡大」・「人材確保」が 31.0%、「宣伝広告強化」27.6%、「店舗設備改善」・「提携先開拓」・「技術力強化」が 13.8%、「機械化促進」・「教育訓練強化」が 6.9%、「新事業開始」3.4%となっている。



□ 来期の見通し

来期の予想業況判断 D. I. は $\Delta 34.5$ と、今期比 17.3 ポイントの下降を見通している。

予想売上額判断 D. I. は $\Delta 13.9$ と、今期比 3.6 ポイントの下降を見通している。

予想収益判断 D. I. は $\Delta 20.7$ と、今期比 7.0 ポイントの下降を見通している。

予想料金価格判断 D. I. は 24.1 と、今期比 10.3 ポイントの下降を見通している。

予想材料価格判断 D. I. は 34.4 と、今期比 17.3 ポイントの下降を見通している。